

課題名 アイデアコンペ

指導教員 片渕 和啓

参加コンペ名 第60回日本大学全国高等学校・建築設計競技（すまいとまちのていあん）  
課題 「つながる家」

主催 日本大学

審査員 渡部 和生・日本大学教授陣

研究の目的

アイデアコンペを通じて、現代における街と住宅の関係性について考察し、「つながる家」を提案する。

作品名 「輪になる家」

コンセプト

一輪車競技は個人プレーである。しかし、この「輪になる家」は一輪車を通して、プレイヤー同士のつながりを深めるための機会を与えてくれる家である。敷地と道路の間にはカウンターがある。このカウンターは街に対して開いており、街とこの家をつなぐ役割を持つ。一輪車プレイヤーもそうでない人も気軽に皆が使えるスペースである。この家の形状は下の図に示す一輪車検定を練習するためのコースをもとに作られている。1階のリビング・工房の外周は、直径 10m の円周走行の練習に使う。大きく張り出した庇の下では、それを支える柱を使って回転、アイドリング、特殊な乗車方法の練習ができる。これらのスペースは雨の日や雪の日でも使用できる。塀にそったコースはスプリント、片足走行などの直進の練習に使うことができる。同じレベル人はおおよそ同じコースに集まるので、同じくらいの目標を持ったプレイヤーとつながることができる。垂れ壁及び塀は黒板となっている。自分が練習中に疑問に感じたこと、自分が教えられること、イベントの情報などを書き込む。この黒板は誰でも書き込み、見ることができる。この黒板は人と人をつなぐための大きなツールである。屋内に入ると土間・工房がある。この部屋は一輪車に乗ったまま入ることができ、一輪車の整備も行える場所である。リビングダイニング、キッチンからはコースの大半が見える。1階は開放的なつくりとなっており、外とのつながりを感じることができる。各部屋は円にそって配置されているため、家の中も外と同様にぐるぐると移動する。2階の演技コースの上のテラスでは、外の空気を感じながら、家族とのひとときを楽しむことができる場所である。

